

# 『サラダボウル喫茶』に行ってみよう

11月12日(土)、晴天のもと正午から横浜キャンパス1号館8階で国際文化交流学科の学科祭『サラダボウル喫茶』が開催された。

私は携わった学生の一人である友人に招待されて、訪れた。以下、サラダボウル喫茶について述べていこうと思う。

## ◆「サラダボウル」とは何か？

サラダボウルとは、一言で言うと、「文化の並立共存(文化は混ざり合わないが、共存していること)」を意味する。本来、多文化・他民族国家であるアメリカ(主にニューヨーク)に用いられており、アメリカを皿として、文化をサラダの具材に見立てている。以前は、アメリカを人種のつぼ(多種多様な民族が混じり合い、次第に共通の文化を形成すること)と表現していたが、現在は反対の

意味であるサラダボウルで表現されている。

## ◆イベントレポート

エレベーターに乗り8階に着くと、少し早く来たせいか、まだ準備が行われていた。正面にある受付でスタッフの方に特製のパスポートをもらった。中にはイベントの紹介やスタンプラリー用紙などが掲載されており、後から来た子供たちが楽しそうにスタンプを集めていた。そして、次第にお客さん達が集まって来て、本日のメインイベントの一つである、「わたせせいぞう氏の講演」が始まり、『サラダボウル喫茶』が本格的に幕を開けた。はじめに中島学長の挨拶があり、その中で学長がとても嬉しそうに、わたせさんのイラストを何点か紹介していた。わたせさんは、今年の神奈川大学のイラストを手掛けている。そのイラストの

外国語学部  
国際文化交流学科1年

奥野 真名美

他にも、公開されていないが、神奈川大学の代名詞ともいえる駅伝チームをイメージしたイラストを描いてくださり、会場のお客さんにお披露目された。わたせさんのイラストはご本人を投影した

### ●イベントスケジュール

- ① 12:15 ~ 12:45  
わたせせいぞう氏による講演  
(現：外国語学部 特別任命教授)
- ② 13:30 ~ 14:00  
留学生によるトークセッション
- ③ 14:30 ~ 15:30  
ILLAY(イジャイ)による、  
アンデス音楽ライブ

かのように優しい表情のキャラクター、明るい色  
使いで、見ている人たちを楽しませてくれる。講  
演の内容は、わたせさんとイラストの紹介、外国  
と日本の漫画の違いなど様々な話題で、お客さん  
は終始聞き入っていた。

少しの休憩時間、廊下の展示物を観たり、別室  
に設けられているカフェや民族衣装体験コーナ  
ーでお客さんはそれぞれにのんびりと過ごしていた。



日本と世界を比較した、さまざまな展示物

休憩後、第二のイベント「留学生とのトークセッ  
ション」が始まった。トークに参加する留学生は  
中国・イタリア・韓国・台湾の男女5名、そして  
アメリカの英語講師の計6名。

スタッフの司会のもと、話は展開されていく。  
話題は、お正月やクリスマスでの過ごし方、風習、  
日本人についてどう感じるかなど、各国と日本の  
違いを、また新たな角度で見ることのできる、と  
ても興味深い時間となった。

時間の都合上短くなってしまったのは残念だっ  
たが、普段なかなか交流が持てない留学生と同じ  
空間にいることは、私にとってすごく新鮮で楽し  
い時間となった。

そして、続けて本日締めくくりとなる最後のイ  
ベント、「イジャイさんによるライブ」が始まっ  
た。イジャイさんは南米ペルーなどに起源をもつ  
アンデス音楽を、奏で歌う  
3名で構成されたグループ  
だ。私同様、アンデス音楽  
を生演奏で聴くことが初め  
ての方が多かったのか、独  
特の楽器を構える彼らに対  
し、「どんなことを始めるの  
だろう？」という雰囲気  
が会場に漂っていた。しかし、



ILLAY さんのライブの様子

いざ演奏が始まると、最初はまばらだった手拍子  
が次第に統一感を増し、また、イジャイさんの誘  
導による足でのステップもぎこちないものから、  
軽やかなものへ。会場全体が大盛り上がりとなり、  
立ち上がる。そして、おそろいのピンクのパーカー  
を着たスタッフたちが、イジャイさんの前に出て  
共に踊りだす。会場全体に熱気が立ち込め、他の  
場所とは違うような感覚を思わせる空間となった。

まだライブ後の余韻が残る中、閉会の挨拶でイ  
ベントは幕を閉じた。



南米ペルーの雑貨や民芸品の販売

その後、カフェに用意された外国のお菓子を食  
べ、たっぷり注がれた紅茶を飲み、最後までお  
客さんは、ゆつくりと過ごしていた。



見晴らしの良いカフェ

◆ 開催スタッフの言葉

この記事を書くにあたり、お忙しい中スタッフ  
の方に質問をさせて頂きました。

Q. 「サラダボウル喫茶」にしようと思ったキツ  
カケを教えてください。

—サラダボウルの並立共存という意味が、国際文  
化交流学科にふさわしいと思ひ、学科祭のタイ  
トルにしました。

※また閉会の挨拶において、1年生のスタッフが  
「サラダボウルについて授業で習ったため名づけ  
た。」とも語っていました。

Q. サラダボウル喫茶での目的・意図は何ですか？

—学科の紹介、日本文化の発信、異文化に触れ  
る機会の提供です。

Q. 開催後の感想を教えてください。

—思っていたより全体的な準備が遅くなってし  
まい、不安に感じていましたが、予想以上にたく  
さんのお客さんに来て頂けて嬉しかったです。ま  
た、準備する中で会議を重ねるにつれ、スタッフ  
同士の仲も深まり、今では学内で声を掛け合うよ  
うになれたのも良かったと思います。

Q. 今後の目標や挑戦してみたいことは何ですか？

—ネットを活用しての集客、全てのイベントに  
参加してもらうように工夫をすること、国際文化  
交流学科の伝統となるようなものを作りあげてい  
くことです。

【御回答ありがとうございました】

◆ 感想

この学科祭で感じたことは、異文化に触れるこ  
とは決して難しいことではないということ。す  
留学生の話や音楽を聴くなど、身近な事からで  
も異文化は感じられます。そして、その中で日本  
との違いを発見することで、日本の良さも再確認  
できるのだと思いました。

これからは、イベントで提供される側としてだ  
けではなく、自分自身で異文化に触れる機会をもっ  
と作ろうと思いました。

充実した楽しい一日を過ごせてよかったです。  
そして、来年の学科祭も楽しみにしています。

参考

<http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/>

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B%A%E7%A8%](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B%A%E7%A8%AE%E3%81%AE%E3%82%8B%E3%81%A4%E3%81%BC)

[AE%E3%81%AE%E3%82%8B%E3%81%A4%E3%81%BC](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B%A%E7%A8%AE%E3%81%AE%E3%82%8B%E3%81%A4%E3%81%BC)

協力

● 質問に御回答いただいたスタッフの方

● 写真 吉田智世